



フクシマの子どもの未来を守る家

ニュース N O 23

13/09/05発行

今月の活動報告

◇8月3日(土) 油戸海水浴場にて海水浴 (3家族) サポーター3人

◇8月5日(月) 谷定ハウスにて 「放射能に負けないご飯」調理実習
4家族とサポーター4人参加

メニュー：黒豆炒りご飯 ビシソワーズ(ジャガイモの冷スープ)
キャベツのカレー風味煮びたし おからハンバーグ

◇8月9日(金) 流しソーメン

夕方、谷定ハウスにて行いました!

参加家族…5家族(子ども9人) サポーター4人
流しソーメン用の「竹」は、サポーターの金丸君作です!!
庭に竹を設置して、
流れてくるソーメンをすくってお腹いっぱい食べました♪



◇8月10日(土) 油戸海水浴 にて海水浴

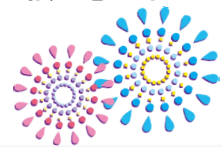
テトラポットにくっついてた「貝」をいっぱい採ったよ!



同日夜 「福島のお母さんの生の声を聴く集い」

いわき市と南相馬市のお母さんのお話を聴きました。 ※裏面へ内容・感想を記載
不安や苦しみをお聞きして、改めてこの原発事故の重大さと、福島の子どものずっと続いている
苦しみを受け止めました。そして、世間では「もう終わったこと」のように扱われている事に、
腹立たしい思いになると同時に、私たちは「フクシマを忘れてはいけない」と強く思いました。

◇8月17日(土) 協立病院の屋上をお借りして、赤川花火大会を観賞
とってもキレイに見えました! ありがとうございます!



《8月10日夜「福島のお母さんの生の声を聴く集い」感想》

二人の福島のお母さんから、以下の項目についてお話を聴きました。

- 3・11 当日の被災状況 ●その後の避難の経過
- 家族の健康状態や福島の様子 ●今困っていること、悩んでいる事

Sさん(いわき市)

□3・11 当日は、たまたま小学校と幼稚園に子供を迎えに行っていた。帰りにスーパーで、子連れで買い物している時に地震が起きた。

2時間ほど、スーパーで待機した後、家に帰ろう・・と店を出たが、道はとても渋滞していた。

□原発が爆発してからは、放射能の影響を心配して、「しばらくは子ども達と家の中にいよう」と決めた。埼玉の叔父が「早く逃げてこい」と連絡してきたので、子ども達と埼玉に行ったが、あの時放射能の拡散と同じルートで避難して、子どもを被ばくさせてしまったのではないかと今になって思う。

□保養は、なるべく行こうと思っていて何か所か行った。しかし、周囲の人に「保養」と言っても伝わらない。「放射能が心配だ」という声を出そうとすると、(放射能を)心配していない人に潰される感じがある。

□真ん中の子どもの甲状腺にのう胞が沢山あることが、今とても心配だ。

□そして、いつまた原発が爆発するかもしれない・・・そうになったらどこに逃げたらよいのだろう、またあの時のような大渋滞になるのだろうか・・・と考えるととても不安になる。

Nさん(南相馬市)

□3・11 当日は、会社にいた。何日か前から地震が頻発していたので、避難訓練をしたばかりだった。

自分の家族は、ばらばらだったが、従業員の安全を確認して帰宅させた。大渋滞で津波警報がガンガン鳴っている中、主人が働いている、海に近い方の会社に行こうとしたら、止められてしまった。

□業務スーパーをやっていたので、津波の被害を受けた人達が、たくさん買いにきて、すごく忙しかった。12日に「原発やばいよ」と聞こえてきたが、店の手伝いの為、子どもを外にも出していた。

□神奈川にいる兄が「子どもを避難させないとダメだ」と言って、3人の子ども達を連れて行ってくれた。2回目の爆発が、その夜に来た。

□その後、親族一同が集まって相談し、自分は甥っ子と夜に南相馬を出て、神奈川に向かった。道は、関東に向かう福島ナンバーの車ばかりだった。

□親戚宅や避難所を転々とした。そして、2012年3月から次女が進学した宮城県名取市に母子で避難生活をしている。

□保養の話しをすると「行ったり来たりで疲れるでしょ」と言われる。

□主人は会社を守るために福島に残っている。

□これから先のことは、わからない。従業員を福島に残し、自分は避難していることに複雑な思いがあるが、子ども達は、何としても守りたい。

高橋 裕子

☆震災から今までの話を聞いて考えさせられたこと

僕は震災があってから、避難、保養で来たお母さんから色々な話をしていただき、震災の時に何が起きていたのか？原発事故で何が変わったのか？を少しずつ思い知る事になりました。自分はまだ経験したことがない津波、その津波によって家族が離ればなれになり、必死の想いで連絡をとったり、探すお母さんの話は胸が痛くなりました。もちろん津波だけじゃなく、原発事故で避難をしなければいけない、しかも日本の色々なところを転々と避難しながらの生活、原発さえなければとの想いでお母さん達のお話を聞かせていただきました。これからまだまだ震災の爪痕は消えないと思いますが、少しずつでもいい方向に向かって行ければと思います。

白幡